



亀井和美

いざというとき、生命を救うAEDをコンビニに

問 ①AEDの設置場所、市民への周知方法は。②市民のAEDに関する認識は。③24時間営業のコンビニにAEDの設置を。

答 ①公共施設や民間事業所等に設置。防災マップや市HPなど②使い方の認識はまだ高くない③課題はあるが設置に向け検討

問 ①車両のスピード抑制、現実的にできる対策は。②スクールゾーンを実施する条件は。③認定ことも園

開園に向けての対策は。
答 ①路面標識や立て看板の増設など。②沿道の居住者を含む地域の賛同が必要。③安全管理員配置、園舎アプローチの確保。
障がい者に優しい選挙投票所の体制を
問 ①「代理投票申請書」変更後の様式は。②選挙投票券の封筒に音声コードの添付を。③全庁的にも音声コードの活用を。
答 ①記録簿的な様式に変更。②前向きに検討。③障害者差別解消法施行により合理的配慮が求められることから実施検討



山本暁子

地域包括ケアシステムの構築へ向けて

問 ①地域支援事業に移行した後の要支援1・2の方へのサービスの变化は。②小地域活動を通所型サービスへ移行していくのか。

答 ①適切なケアマネジメントを行った結果、サービス提供者が変わる方も。②可能性のひとつとして考えられるが今後検討による。

問 ①集団感染と学級閉鎖の経緯②保健所の訪問指導の内容③掃除用使い捨てマスクや手袋の備蓄は④

ホームページの情報発信は。
答 ①動線が重なる児童間で感染拡大。多数欠席で決定②うがいや汚染箇所の消毒徹底③学校に用意④感染症発生状況を掲載。
電磁波のリスクと安全対策について
問 ①電磁波に対する市の認識を伺う。②電磁波過敏症・妊娠中の女性・子供への影響は。③電磁波問題を相談する窓口あるのか。
答 ①健康への影響が懸念されることは認識。②対策を講じる必要があるれば、対処していく。③現在、相談窓口は設けていない。



市原広子

離婚後親子の面会交流の推進について(その2)

問 ①子の利益を最大に考える離婚後も養育親・片親双方との交流を持つことが子にとって望ましいが慎重にしなければならぬケースは。②養育親の片親への葛藤が強く片親に合わない「片親阻害」への見解

答 ①DVのある家庭で育った子や自身が虐待を受けた子の加害者の親との交流は、慎重に対処すべき。②多種多様な複雑な内面的メカニズムがあり、専門職としてのスクールカウンセラーの力をかりていく。

問 ①外部ネットワークと個人情報端末を物理的に切り離す準備は②通知カード返戻の対応③苦情相談や申し立ては④職場・大学でもマイナンバーカード一括申請は受け付けるべきでない。

重要政策課題の進め方—マイナンバー制度—
問 ①個人情報を扱う端末を遮断。②一定期間保管し、異動を調査。新住所へ再送付、居住事実がない場合等は廃棄。③条例による。④実施する予定はない。
他に、働いている生活保護受給者の収入認定を質問



山田たくじ

働き盛り世代を含めた市民協働のあり方について

問 ①市民モニター制度の状況。②狛江市のSNSは活用されているか。③来年度開設の市民活動支援センターの役割。

答 ①平成28年度から開始したい。②市政情報など、情報発信ツールとして活用。③市民力の活性化に結びつけたい。

空き家の有効利用について
問 ①市内空き家数。②空き家の分布状況。③除却と利活用のバランス。④利活用の方策は。

都市計画マスタープランの進捗状況について
問 ①平成26年度報告書の低評価分野。②公園・緑地の整備手法。③買入れ、借地のメリットとデメリット。
答 ①赤ちゃんふらっと、樹林地保全。土地利用方針。②借り入れ、買収、区画整理や寄附。③予算確保、永続的公園利用保障の可否。



佐々木貴史

安全・安心なまちづくり

問 災害発生時における「互近助(ごきんじよ)のつながりを強く」という記事を目にした。互近助という考え方への所感を。

答 防災対策での共助に発展する。防犯対策、そのほか普段の生活の場でも地域住民にとってプラスになると感じている。

市民要望の実現に向けて
問 ①小・中学校の冷房化に一層の加速を。②道路整備で高橋市長就任後に何が変わったのか。③駒井

大通りの通学安全対策を。
答 ①財政負担等を考慮しできる限り進めたい。②就任前645m今年度1410mを予定。③路側線等塗り直しや路面標示で対応。
高橋市長の行財政運営の取り組みについて
問 財政運営上、26年度決算における数値で改善が見られた点、高橋市長就任から新たに取組まれた点や改善された点を伺う。
答 経常収支比率、公債費負担比率、市税徴収率の改善、市債残高の減少、公立保育園の民営化、小学校給食調理業務の委託化等。



吉野芳子

狛江市の貧困対策、SOSの声に応える支援を

問 ①子どもの貧困の実態把握②食の支援③居場所の拡充④生活保護の受給状況と適正な運用とは⑤生活困窮者モデル事業の課題

答 ①情報のアンテナを張る②フードバンク団体に依頼し、支援③検討必要④過去最高に。適切な援助⑤ネットワークと社会資源。

誰もが安心して平等に暮らし働くために
問 ①庁内ワークライフバランスの工夫②DV被害者等の安全確保の全庁的対策と危機管理体制③総務

省通知のマニュアルの活用。
答 ①風通しのよい職場でフォロワー体制構築②庁内連絡会設置、関係部署連携や情報共有化③適宜マニュアルを見直し、情報共有。
豊かな水辺に親しみ水循環のまちをつくらう
問 ①雨水の有効利用②野川の水质状況と対策③雨水の貯留池施設の効果検証④生物多様性ある野川改修整備を⑤水辺の学校成果

財源を確保するための社会福祉等歳出抑制策
問 ①高齢者見守りサービスとごみ出し支援事業の連携②資源物ごみ集団回収、市として積極的に取り組むことで財源確保視点は③集合住宅へ集団回収のメ리트啓蒙と古紙回収の有効性訴求が鍵と考えるが。

中学校歴史教科書採択
問 ①採択された東京書籍が適切とされた理由を問う。②歴史授業で近現代史を学ぶことは大切だが、市における授業の現状と割合は。③公民の教科書採択において適切な視点とは。
答 ①特定の主張や一面的な理解に陥ることがない公正さ。②55から63時間を充て適切に学習。③政治や社会の問題を身近な課題と捉え、協議等を通じて考えを深めていける構成。
他に、地方創生「まちごと」と「創生事業」に関して質問



太田久美子

児童・生徒の悲惨な事故を防ぐには

問 ①児童・生徒の自殺予防に大切なことは②図書館の果たす役割は大きいと考えるが③自殺予防週間への取り組みの検討を。

答 ①変化を見逃さず関係機関と連携し対応②資料や掲示物で周知③図書展示等を検討。朝礼で講話、道徳で生命尊重の授業。

教育における子どもの貧困対策
問 ①学習支援に関するその後の調査、支援は②国の取り組み③先進自治体

の取り組みも参考にすべき。
答 ①学校支援ボランティア制度の中で考える②貧困に限らず広く支援の必要な子どもに対する仕組みを考えたい③参考にする。
都市鉱山とも呼ばれる資源の有効活用
問 ①使用済み小型家電イペント実験回収実績と評価。②ピックアップ回収はあるか。③宅配便を活用した小型家電回収検討を。
答 ①ごみ減量と処理費用の削減。②平成26年度より粗大ごみから使用済み小型家電を抜き出して実施③前向きに研究していく。